



奥永源寺地域から見る「地方創生」と「しがブランド」の可能性

株式会社みんなの奥永源寺 代表取締役 前川 真司



プロフィール

- 兵庫県宝塚市出身 1987年8月20日生 まだまだ31歳の若輩者
- 中学時代 高知県土佐郡大川村へ山村留学 農山村の豊かさの中で育つ
- 高校時代 兵庫県立播磨農業高校（全寮制）へ進学 農業技術の基礎を学ぶ
- 大学時代 東京農業大学 国際食料情報学部 食料環境経済学科へ進学
- 留学時代 UCL A・イギリス・イタリア・フランス・韓国・台湾 八日市南高校の教員
- 2013年 同志社大学 リーサルアントロポロジー実践学を受講 地域おこし協力隊へ

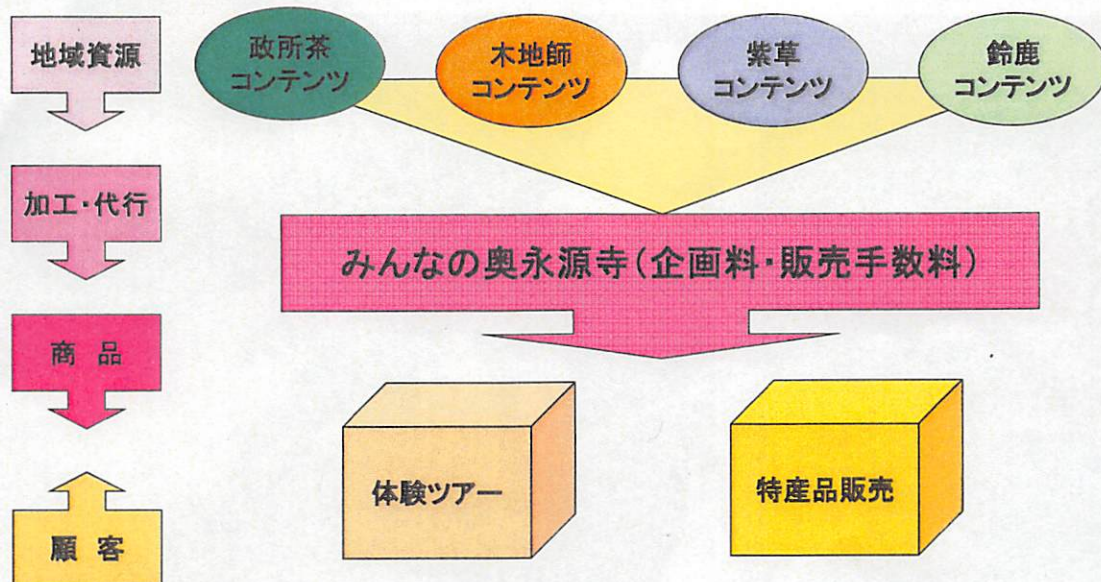
奥永源寺の魅力 ～ 地域資源の棚卸し ～



奥永源寺地域の魅力

- 立 地 滋賀県 東近江市 永源寺地区 京都と名古屋から1時間半
- 現 況 [人口] 422 人、[世帯数] 175 世帯、 高齢化率 80%以上
- 特 産 品 「無農薬 在来品種の政所茶」「木地師発祥の地」「万葉紫草」
- 自然条件 鈴鹿国定公園の頂 日本遺産登録 清流と紅葉、鈴鹿10座
- 地域資源 「ヒト・モノ・コト・ワザ・ココロ」 地域活性化の原動力

「みんなの奥永源寺」のビジネスモデル



「地域資源の棚卸し」による「地域力」の「見える化」

- 「地域資源」の見える化 「ヒト・モノ・コト・ワザ・ココロ」
- 「地域力」と「地域色」 「何が強みか」を「地域ブランド」に
- 「地域ブランド」構想 から 「地域事業」と「地域活動」を創る

東近江市の花「紫草」を活用した
「耕作放棄地の再生」と「雇用の創出」事業
株式会社みんなの奥永源寺 前川 真司

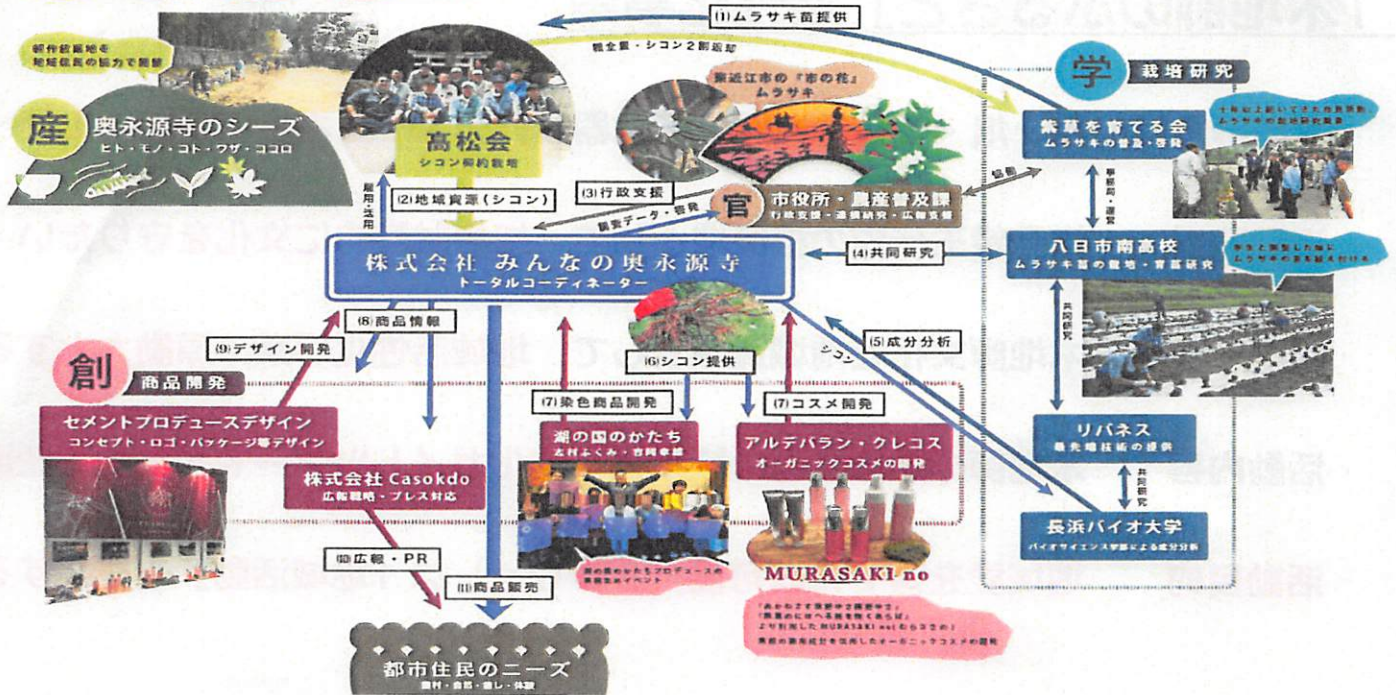


紫草の栽培

- 紫草とは 万葉集にも歌われる東近江市の花 絶滅危惧種で栽培困難
- 栽培背景 八南の栽培研究から冷涼地栽培が有効 奥永源寺で試験栽培
- 栽培目的 限界集落・耕作放棄地・絶滅危惧種の 復活のシンボルとして
- 連携体制 東近江市役所・八南・県大・永源寺地域 産・官・学連携事業
- 事業目的 地域に持続可能（SDGs）な「雇用」と「活力」を創造する

産官学創

連携 東近江ムラサキ、紫縁プロジェクト 関連図



「木地師のふるさと」活性化事業 木地師のふるさと高松会 プロジェクト





「木地師のふるさと」活性化事業

- 木地師とは 君ヶ畑・蛭谷地区発祥の椀器製作職人 日本木工芸発祥の地
- 活動背景 惟喬親王伝説の根源地として 知的財産的に文化を守りたい
- 組織結成 木地師文化を地域資源として 地域活性化事業の原動力とする
- 活動内容 木地師のふるさとの観光化 文化ガイドツアーやイベント企画
- 活動目的 地域愛を育て持続可能（SDGs）な「地域活動」を確立する

2019/1/18



「地域事業」と「地域活動」の「両輪両軸の整備」

- 「地域事業」の確立 「地域雇用」と「持続可能な開発」の軸
- 「地域活動」の確立 「交流人口」と「地域愛の醸成」の軸
- 「両輪両軸」の発展 「地域の担い手」と「選ばれる地域」へ

2019/1/18

「SDGs」を活用した 選ばれる「しがブランド」の創成



「万博」には、人・モノを呼び寄せる求心力と発信力があります。
この力を2020年東京オリンピック・パラリンピック後の大阪・関西、そして日本の成長を持続させる起爆剤にします。

■テーマ・サブテーマ

いのち輝く未来社会のデザイン
"Designing Future Society for Our Lives"

多様で心身ともに健康な生き方
持続可能な社会・経済システム

- 「人」(human lives)にフォーカス。
- 個々人がポテンシャルを発揮できる生き方と、それを支える社会の在り方を議論。

■コンセプト

未来社会の実験場 ~ People's Living Lab ~

- 展示をみるだけでなく、世界80億人がアイデアを交換し、未来社会を「共創」(co-create)。
- 開催前から、世界中の課題やソリューションを共有できるオンラインプラットフォームを立ち上げ。
- 人類共通の課題解決に向け、先端技術など世界の知恵を集め、新たなアイデアを創造・発信。

日本、大阪・関西で開催する 万博の多彩な魅力

- 日本経済及び大阪・関西の地域経済の活性化やビジネス機会の拡大による中小企業の経営強化により、約2兆円の経済波及効果が見込まれる。
- 大阪・関西が世界に誇るライフサイエンス、バイオメディカルが集積が、万博のテーマに沿った新たなイノベーションでさらに発展する。
- 悠久の歴史・文化を誇る大阪・関西が、異なる文化との交流を通じて、さらに豊かなものとなり、世界における圏域の認知度が向上する。
- 日本の様々な分野における次世代の若いクリエイターが、自らの才能を世界に向けて発信できる。
- 日本には世界で最も安全な環境、先進的な交通インフラが整備され、大阪・関西は、世界の主要都市のどこからでも容易にアクセスできる。

2025年大阪・関西万博がめざすもの

▶ 国連が掲げる持続可能な開発目標(SDGs^{※1})が達成される社会

▶ 日本の国家戦略Society5.0^{※2}の実現

※1 SDGs：持続可能な開発目標。2015年9月、国連総会で採択された「国連持続可能な開発サミット」において、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」が採択され、17の目標が掲げられた。
※2 Society5.0：野村総研、経団連、工業団地、情報経済に続く、5番目の新しい産業(超スマート社会)。1に「人」、2に「モノ」、3に「金」、4に「知」を加え、5に「人・モノ・金・知」を加えた「5つの要素」を基に、人・モノ・金・知・環境の5つの要素を統合した社会を目指す。





「SDGs」を活用した「しがブランド」の「創成」

- 「森・川・里・湖」の多様なライフスタイル **近畿1,500万人の「命の源」**
- 「SDGs型ライフスタイル」へ **「産業イノベーション」と「エシカルライフ」へ**
- 「観光イノベーション」で **「世界から選ばれる「しがブランド」へ」**

2019/1/18



「地方創生」と「ブランドづくり」の「まとめ」

- ① 「地域資源の棚卸し」による「地域力」の「見える化」
- ② 「地域事業」と「地域活動」の「両輪両軸の整備」
- ③ 「SDGs」を活用した「しがブランド」の「創成」



SDGs志向型の「生き方・考え方・暮らし方」の確立

2025大阪万博 ⇒ **SDGs 2030の完成**

2019/1/18